

2021年度 人間学研究科【結果】

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
B'sVision2024の方針に基づき、自立と共生の理念を踏まえた教育方法の改善を図る。具体的には、教育力日本一及び永久サポート大学の観点から保育学コース：現職院生の修士論文執筆率100%、社会福祉学コース：外国籍院生の修了及び進級への配慮として研究方法の伝授及びメンタルケアを行う。臨床心理学コース：資格取得率向上と就職率向上(80%以上)を目標とする。	保育学コースの修士論文執筆率は100%であった。社会福祉学コースの外国籍院生の修了及び進級は滞りなく遂行できた。メンタルケアについては工夫の余地がある。臨床心理学コースの資格取得率の向上に努めた。就職率80%達成。	100%	保育学コース：修士論文執筆率及び提出率100%の結果から目標は達成した。社会福祉学コース：コース全体で本課題を共有し解決に取り組んだが、より一層の工夫が必要である。臨床心理学コース：就職率80%以上を達成。	FD研修会・授業アンケート・自己点検評価	社会福祉学コース：新カリキュラム、新メンバーによる教育の安定と魅力ある教育の構築と設定。保育学コース：コース学生の確保特に科目等履修生へのコース入学の促進。幼稚園専修免許状取得、並びに臨床発達心理士の受験資格に関する広報、及び免許資格取得の支援。高度な専門的人材の育成に関する実績アピールとそれを保障するためのコース運営が必要。臨床心理学コース：公認心理師、臨床心理士養成のための教育の充実化。就職率の向上及び院生の研究力強化が必要である。
認証評価「改善課題」から本研究科修士課程0.38の定員管理について検証及び評価を行い充足を目指す。	各コース募集活動及び広報に力を入れた。また、事務局との連携によりオンライン説明会～研究室訪問に結び付けケアを行った。	100%	広報活動は課題が残る。HP,大学祭との連携、パンフレットの作成等々が考えられる。院教員及び事務局との連携作業によりオンライン事前面接から研究室訪問につなげたことから募集は昨年比+2名となった。	HP・保育学コース「学びの扉」・あやめ祭大学院ブース展開状況・入学試験判定資料	社会福祉学コース：グループでの学会等の参加など、研究の場に触れさせるような、専門的研究法の指導。ホームページの詳細な点検と完全リニューアル。語学サポートの体制構築。学部と連携し、ホームカミングデーをあやめ祭でブースとして設置、広報につなげる。保育学コース：修了後の進路状況の広報等により専門性の高い研究・学習の機会となることをアピールする。幼稚園専修免許状及び臨床発達心理士について高度な専門性に資するコース開設科目及び担当教員について検討し、保育学コースカリキュラムの改訂を行う。リーフレット等を改訂し、免許資格関連科目にして広報すると共に、円滑なコース運営を行う。学生等の研究計画やキャリアデザインを尊重した指導等に関する研修等を行う。臨床心理学コース：実践的に活動できる人材育成に向け、教育・実習を充実させる。就職内定率を80%以上とする。学会発表、論文執筆を働きかける。
教学に関する方針を踏まえ、院生の視点を重視した供給者目線から学修者目線によるFD研修を実施する。	リカレント教育、学び直しが叫ばれている中、履修証明プログラムを事例としてFD研修会を実施。	100%	2021年度11月の人間学研究科委員会後、FD研修会を実施。内容は「履修証明プログラム野可能性」。今後各コースが将来構想を考えていく際のヒントとして事例を紹介。実際に実施し効果を上げている保健医療科学研究科理学療法部門のブラッシュアップコースの事例を紹介しながら概念整理と具体的事例分析を行った。研修結果を踏まえ、臨床心理学コース「臨床心理相談センター」では2022年度夏季休暇期間中に経験10年以上の修了生を対象とした「スーパーバイザー勉強会」が第170回臨床心理センター運営委員会にて審議、承認された。	文部科学省推奨「履修証明プログラム」の概要資料・卒業生アンケート結果・幼稚園教諭の大学院進学に対する障壁分析(Teamsチャットインタビュー調査)・中央教育審議会大学分科会「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿～社会を先導する人材育成に向けた体質改善の方策(審議まとめ)～」(2019年)。	今後のFD研修会内容に3Pの視点を組み込み将来構想を各コースで分析・検討していくことが望まれる。また、FD研修会の効果分析により、リカレント的学びの場を設けながら現場におけるキャリアの形成方法を模索すること、これからの社会に適応していくための教育プログラム(知識と技能の習得)を考えていかなければならないことが明らかとなった。そのためには既存の観念に縛られることなく、新しいものを創り出していく。そんな姿勢が求められると考察できた。キャリア形成のために履修証明プログラムによる新しい教育プログラムを構築することが必要となる。
認証評価「是正勧告」を踏まえ、修士論文特定課題の審査基準明示し『人間学研究科要覧』及びHP上において公表する。	特定課題については、基本に立ち返り人間学研究科で取り入れていくのか否かの議論から今後慎重に進めていく。	2022年度継続審議	修士論文に代わる特定課題における研究成果を判断すべく審査基準の策定については、そもそも特定課題を設定するかの議論から始めていくことを人間学研究科教務委員会及び運営協議会により審議され、研究科委員会にてその旨報告された。今後、特定課題の取り扱いについて検討していく。	結論を急がず慎重に取り扱うこと。社会の現況を分析・検討し、加えて人間学研究科の在り方を同時に見つめなおすことで適切な回答を導き出すことが重要であるという慎重論を評価。人間学研究科運営協議会議事録・人間学研究科委員会議事録	人間学研究科の問題にとどまらず本件は5研究科に亘る重要な案件であると考察できるため、慎重かつ継続的な課題として審議していく必要がある。
認証評価「改善課題」を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する基本的な考え方を示すため、カリキュラムマップ作成及びナンバリングを実施し教育課程の体系化を図る。	作成済。教育の体系化を図った。	100%	大学基準協会認証評価「改善課題」を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する基本的な考え方を示すため、カリキュラムマップ作成及びナンバリングを実施し教育課程の体系化を図ることができた。	2022年度要覧から掲載開始。	教育の体系化を図るべく具体的な実施が必要。

2022年度 人間学研究科

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
B'sVision2024の方針に基づき、自立と共生の理念を踏まえた教育方法の改善を図る。具体的には、教育力日本一及び永久サポート大学の観点から以下各コースにおけるPLAN(計画)を策定する。
社会福祉学コースは、新カリキュラム、新メンバーによる教育の安定と魅力ある教育の構築するため、グループでの学会等の参加など、研究の場に触れさせるような、専門的研究法の指導を行う。
ホームページの詳細な点検と完全リニューアルを実施する。語学サポートの体制構築。学部と連携し、ホームカミングデーをあやめ祭でブースとして設置、広報につなげる。
保育学コースは、コース学生の確保特に科目等履修生へのコース入学の促進、幼稚園専修免許状取得、並びに臨床発達心理士の受験資格に関する広報、及び免許資格取得の支援、高度な専門的人材の育成に関する実績アピールとそれを保障するためのコース運営を図るため、修了後の進路状況の広報等により専門性の高い研究・学習の機会となることをアピールする。
幼稚園専修免許状及び臨床発達心理士について高度な専門性に資するコース開設科目及び担当教員について検討し、保育学コースカリキュラムの改訂を行う。リーフレット等を改訂し、免許資格関連科目にして広報すると共に、円滑なコース運営を行う。学生等の研究計画やキャリアデザインを尊重した指導等に関する研修等を行う。
臨床心理学コースは、公認心理師・臨床心理士養成のための教育の充実化、就職率の向上、院生の研究力強化を図るため、実践的に活動できる人材育成に向け教育・実習を充実させる。就職内定率を80%以上とする。学会発表、論文執筆を働きかける。
継続審議である特別課題について検討していく。
院生の受け入れに対する適正性(アドミッション・ポリシー)について、自己点検、評価体制とその方法を構築していく。
教学IRの視点から今年度もFDの充実化を図り遂行する。